

令和元年度「民営化特別養護老人ホーム等の運営にかかる意見交換会」 意見と回答

意見	回答
1 利用者対応、サービスの充実について	
施設内での事故防止の取組について伺いたい。	<p>施設内の事故については、全ての事例に共通する防止策というものがなく難しい問題ではありますが、事故の傾向の分析と職員指導への反映、施設間での事例共有なども行いながら対応力の強化につとめており、体制が整ってきていると感じています。</p> <p>介護度の重い方が年々増えてきている中で、組織としての対応力が上がっていくと、さらに小さなこと(ヒヤリハット)も新たな課題として浮かび上がってきますので、引き続き事故の防止に取り組んでいきたいと考えています。</p>
ACP(アドバンスド・ケア・プランニング)について伺いたい。	<p>富士見台特別養護老人ホームでは、看取りについての家族懇談会を開催し、実際に施設での看取りを経験されたご家族を4組お呼びして、自身の体験談を話していただく機会を設けました。入所者のご家族の55%の参加がありました。</p> <p>終末期の対応については、入所時に説明し、相談員からも状況を見て話をしていますが、実際の体験談を聴いてもらうことはご家族にとって、とても有意義であると感じました。</p> <p>富士見台特別養護老人ホームは、東京都の看取り支援事業の研修にも関わっており、終末期ケアについては今後も主体的に取り組んでいきます。</p>
利用者やご家族からの意見はどのように聞き取っているか。	<p>入所者ご本人からの意見は、普段からお話を聴くのはもちろん、3か月に1度のモニタリングの機会にもお気持ちを伺うようにしています。</p> <p>ご家族からの意見については、入所者との面会時などに職員から、困っていることはありませんか、などの積極的な声かけを心掛けています。</p>
「農福連携」「職場体験」について伺いたい。	<p>大泉特別養護老人ホームでは、大泉地域の社会福祉法人が加入している「大泉法人ネット」の活動として、「農福連携」「職業体験」に取り組んでいます。</p> <p>まず「農福連携」ですが、大泉地区の農園で、障害者施設、保育施設、高齢者施設の利用者や職員が定期的に集まって、農作業や収穫、お祭りを行っています。今年で2年目となります。</p> <p>車いすを利用して参加する方もいて、外の空気に触れてリフレッシュしていただく良い機会となっています。特別養護老人ホームに併設しているケアハウスの入居者の方も参加しています。</p> <p>「職業体験」については、大泉特別養護老人ホームでの受入れ実績はまだありませんが、精神障害者の方の社会復帰支援の場として活動していきます。</p>

令和元年度「民営化特別養護老人ホーム等の運営にかかる意見交換会」 意見と回答

意見	回答
2 運営の適正化・効率化への取り組みについて	
<p>特養の運営について工夫や改善したことがあれば伺いたい。</p>	<p>富士見台特別養護老人ホームでは、これまで16時間勤務の夜勤職員を3名体制としていましたが、令和元年9月から、16時間勤務を2名、8時間勤務を1名としました。これにより人件費を抑えるとともに、職員一人あたりの夜勤の負担時間を減らすことができ、効果が出ています。</p> <p>特別養護老人ホームは常に満床に近い利用率となっているため、今後は収入面はもちろん、支出面での工夫が必要になると考えています。</p>
<p>認知症対応型通所介護(認知デイ)の運営状況について伺いたい。</p>	<p>特養などと比べると、利用率は高くありませんが、ケアマネジャーへの積極的な情報提供を行うことで改善につながることが出来ました。</p> <p>一方で、デイ利用者の3～4割程度が介護度3以上の方であり、せっかくデイサービスを新規にご利用いただいても、すぐに別の施設への入所が決まる方が多かったという印象があります。</p> <p>引き続き地域密着型の施設として、地域のかたの受け皿となれるよう継続して運営していきたいと考えています。</p>
3 介護人材等の育成、確保について	
<p>外国人職員の採用について伺いたい。</p>	<p>関町特別養護老人ホームでは、2名の外国人職員を採用しています。最終的には日本でなく母国へ戻って福祉の仕事をする方にはなりますが、明確な目標を持って介護の世界に来ている方たちなので、勤勉で働きぶりがよく日々の介護業務をお願いしています。</p>
<p>高齢者による介護補助について伺いたい。</p>	<p>以前にはシルバー人材センターを活用したこともあり、一定の年齢の方であっても業務を担っていただけるという実感があります。</p> <p>田柄特別養護老人ホームでは、70歳以上の方にも、介護の補助業務をお願いしています。業務の時間は限られるものの、施設側の需要と合致すると、職員の負担軽減になると感じています。</p>